

JWFファンド2021 完了プロジェクト 概要

2. Kaptolla村の給水所(水キオスク)の設置(ケニア)

- 実施団体: Ufanisi Support Group (USG) (#099)
- 実施地: ケニア BungomaカウンティKabuchai自治区Kabuchai区Kisiwa地区Kaptolla村
- 費用: 1,805ドル(JWFファンド1,500ドル、受益者305ドル)
- 受益者数: 1,500人(女性250人、男性250人、子ども1,000人)
- 実施地の水問題:

Kaptolla村に住む250世帯は貧困と水不足に苦しんできた。村にはBigという市場が1つあり、村民は育てた野菜をそこで販売し、生活に必要なものを購入してきた。プロジェクト実施前は、Big市場に安全な水が無く汚染された水に起因する病気が発生して、市場が閉鎖されそうになった。女性たちは村から最大2.5キロ離れた汚れた水源から水を汲んでくるか、1キロ離れた管路の水を購入するしかなかった。水の購入や水系感染症の治療に収入の3割以上を費やしていたので、貧困状態から抜け出せなかった。



実施前:
汚れた水源から水を汲む女性



実施後:
キオスクから給水する様子

- 主な活動内容:
関係者との初回ミーティング、給水所(水キオスク)とBungoma及びTrans Nzoiaカウンティが所有するNzowasco水公社の管路から分水される送水管路延長1キロの設置、水利用者組合の設立、水質検査、維持管理と衛生に関する啓発活動。
- 特長(持続性):
NZOWASCOからの材料調達、送水管路への水供給、技術者派遣等の支援があった。水キオスクからの水を販売して、水利用委員会が売上と維持管理をする。
- 実施団体:
ケニア西部のKisiwa地区で貧困に苦しむ人々へ水と衛生、経済自立支援、教育などを提供する活動をしてきた。JWFは2017年に湧水保護設備建設を支援した実績あり。

JWFファンド2021 フォローアップ結果

2. Kaptolla村の給水所(水キオスク)の設置(ケニア)

【現状】

JWFF2021によって設置した延長1キロ送水管路と水キオスクは、計画機能どおり1,500人の受益者に一年を通じて給水されていた。施設の破損は、2023年9月初から11月初まで計画地域に非常に強い雨が降って多少塗装が落ちた箇所のみだった。2023年末には、水キオスクの塗装が剥げた部分を補修する計画が経営者たちにある。

受益者は施設を正しく使用していて、使用上の対立や争議といった問題はなかった。水利用委員会はKaptolla村の世帯を代表する250人の女性から10人が選ばれて、経営者として送水施設の運用と維持管理、手洗いの重要性をプロジェクト実施中に学んだ。水利用委員は一日2人ずつの輪番制となっていて、営利性環境性の原則をもとに、持続性と長期的な利益を目指した運用と維持管理をしていた。Kaptolla村の世帯に20リットル容器毎に2.5ケニヤシリング(0.025ドル)で安全な水を販売して、販売記録をつけ、NZOWASCO水公社の請求書や施設の維持管理費用を支払っていた。その利益のうち70%を賃金として受け取り、30%は将来の送水施設拡張費として貯蓄していた。具体的には、Kaptolla村の水キオスクでは月平均して1世帯あたり約4,000リットルの安全な水を消費していた。250世帯なので約百万リットルの消費と見積もられていた。すると月收入は約1,250ドルとなり、NZOWASCO月払いが約416.67ドル、毎月の補修費等が約20ドルとして、月当たり純利益は約813.33USドルと計算されていた。

【変化】

受益者は世帯ごとに家の外に取り付けられた空き缶シャワー(leaky tin)手洗い器で、石鹼と水キオスクからの水を使って手を洗っていた。プロジェクト施設の経営者たちは空き缶シャワーやティッピータップ(写真参照)など、地元で手に入る材料でできる手洗い場作りの指導によってプロジェクト対象受益者世帯のすべてに手洗い場を設置することで、頻繁かつ定期的に石鹼で手洗いをできるようにして、水系感染症やコロナウイルスと接触する人がいなくなるように徹底した。

受益者はこのプロジェクトで研修を受講してから、正しい手洗い方法で少なくとも20秒かけて手を洗うようになった。また、受益者は地表水を飲む前に煮沸したり、塩素殺菌、太陽消毒やウォーターガード(次亜塩素酸ナトリウム剤)による浄化を受け入れたりするようになった。また、正しい取り扱い方法として水を集める前に容器を洗うようになった。

Kaptollaの共同体にとって、送水施設と水キオスクの設置以降は水系感染症が大幅に減って過去のものとなった。つまり、共同体が長らく医療に使っていた支出がなくなって、より健康で豊かになった。受益者が自由に安全に使える水が手に入るようになったので、共同体に居住する人々の自己認識は高くなり、公衆衛生担当者との関係がよくなった。受益者は健康になったおかげで、水集めと水系感染症の治療のための時間・エネルギー・費用を節約して農業や収入を増やす活動に投資や参画できるようになった。貧困状態を終わらせる道ができた。今では苦労して稼いだ所得から、水の購入には7%未満(実施前は35%)しか使わなくなり、水系感染症の医療費は35%以上減った。

【その他】

実施団体は、JWFF2021後に水や衛生分野のプロジェクトを行っていない。資金不足が草の根活動継続の障害とされた。



水キオスク現状



水キオスクから給水する受益者



ティッピータップ(簡易手洗い器)を利用する受益者

JWFファンド2021 フォローアップ結果

2. Kaptolla村の給水所(水キオスク)の設置(ケニア)

現場からの声(抜粋)

Eliud Muyekhoさん (47歳、共同体首長)

私はこのプロジェクト終了後、地域住民の保健衛生行動に前向きな変化を見出せます。住民の皆様はご家庭に地元で手に入る材料で空き缶シャワーやティピータップといった手洗い場を作るようになりました。そして頻繁かつ定期的に石鹼を使った正しい方法で少なくとも20秒かけて手を洗って水系感染症やコロナウィルスと取り組むようになりました。また、皆様は地表水を飲んだり他の目的で使う前に、煮沸したり、塩素殺菌、太陽消毒やウォーターガード(次亜塩素酸ナトリウム剤)による浄化を受け入れたりするようになりました。その上、水を集める前に容器を洗うようになりました。

地元の人々はプロジェクト終了後健康面で前向きな変化を得られました。共同体の住民は水系感染症が大幅に減って健康になりました。Kaptolla共同体では送水施設と水キオスクの設置以降は水系感染症の大流行がなくなりました。

プロジェクト終了後、地域共同体の社会経済状況に前向きな変化がありました。共同体の住民が健康になったので、水集めと水系感染症の治療のための時間・エネルギー・費用を節約して農業や収入を増やす活動に投資や参画できるようになりました。結果として、共同体から貧困を減らしています。今では、苦勞して稼いだ所得のうち水の購入には7%未満(実施前は35%)しか使わなくなり、水系感染症の医療費は35%以上減りました。

Sharon Wafulaさん (33歳、経営委員会)

委員は一日2人ずつの輪番になって働いていて、当番の二人がその日に起きた全ての役割を果たします。委員会から一日二人ずつ割り当てられた当番制度です。プロジェクトでできた全施設の運用と維持管理をして、その維持管理に必要な財源となるようにKaptolla村の世帯へ20リットル容器毎に0.25ドルで安全な水を販売する人材を、全て供給しています。

水キオスク利用者からの声として、次のようなコメントをいただきました。「プロジェクト前は、一日少なくとも3時間かけて汚れた安全ではない水を遠く離れた地表水源から高い費用をかけて運ぶ旅をしていました。それが今では、毎日に必要な手に入りやすくて信頼のおける安全な水が安い値段で、水キオスクの安心できる流水を使えるようになりました」

Sella Waswaさん (52歳、利用者)

私は良く施設を使っています。気分よく、ウェルビーイングと健康という意味では大切にされている感じがします。

WASH研修の実践としては、地元で手に入る材料で空き缶シャワーとティピータップ手洗い所を家庭で作りました。そして今では、私の家族も定期的に石鹼を使った正しい方法で少なくとも20秒かけて手を洗って水系感染症やコロナウィルスと取り組むようになりました。また、家の中ではいつも確実に水キオスクの水を使うようにしています。その上で、安全ではない地表水を飲雑用水に使う前には浄化処理をするようになりました。

このプロジェクトの完了後、私と家族の生活には前向きの変化がありました。私も家族も健康になって、家庭内で安全ではない水を飲んだり不衛生によって病気にかかってはいません。もう水集めと水系感染症の治療のための時間・エネルギー・費用を節約して、農業や収入を増やす活動に投資や参画できるようになりました